様式

試験研究成果普及情報

部門	その他	対象	普及
課題名：家畜の放牧ゾーニングによるイノシシの農作物被害軽減効果			
［要約］山と農地との間の耕作放棄地へ放牧地を設け緩衝地帯を作る放牧（放牧ゾーニング）は、イノシシの農地への侵入を抑制する効果がある。また、放牧ゾーニングを捕獲や防護柵の設置等の対策と連動して実施することにより、地域全体のイノシシによる農作物被害を軽減する効果が期待できる。			
ﾌﾘｰｷｰﾜｰﾄﾞ：放牧ゾーニング、イノシシ、鳥獣害対策、耕作放棄地対策			
実施機関名　主　　査　畜産総合研究センター　嶺岡乳牛研究所 協力機関　暖地園芸研究所、生物多様性センター 実施期間　2010 年度～2012 年度			

［目的及び背景］

県南地域では近年イノシシによる農作物被害が増加傾向にあり、農家にとって極めて深刻な問題となっている。一方、耕作放棄地を利用した家畜の放牧は、イノシシによる農作物被害を軽減する効果があるといわれている。そこで、イノシシの生息地である山と農地との間の耕作放棄地へ放牧地を設け緩衝地帯を作る放牧（放牧ゾーニング）試験を行い、放牧ゾーニングによるイノシシの農作物被害軽減効果について検討した。

［成果内容］

1　放牧ゾーニング（図１）によって、放牧地周辺のイノシシの出現頻度が、近隣の里山や耕作放棄地に比べ低下する（図２）。

2　放牧地周辺の獣道・掘り返し跡も減少する。

3　ワナの増設や電柵の設置等の獣害対策と同時期に放牧を行ったところ、放牧地に隣接した集落の農作物被害が減少し（図３）、「放牧の効果があった」という意見も放牧地近隣を中心に聞かれた（図４）。

［留意事項］

放牧ゾーニングを行う際には、放牧に適した牛の確保（繁殖雌和牛が望ましい）と馴致、水飲み場等の施設の準備、こまめな見廻りを行う等の適切な放牧管理、電気牧柵の安全対策、集落内での放牧に対する地域の合意形成等に留意する必要がある。

［普及対象地域］

イノシシによる農作物被害が報告されている、あるいは今後被害が予想される地域

［行政上の措置］

・放牧牛、放牧地の確保に際して、畜産農家と耕種農家との合意形成に対する支援、及び適切な放牧管理、電気牧柵の管理に対する指導

・捕獲や防護柵の設置等、放牧ゾーニングと連動して行う獣害対策に対する支援

［成果の概要］

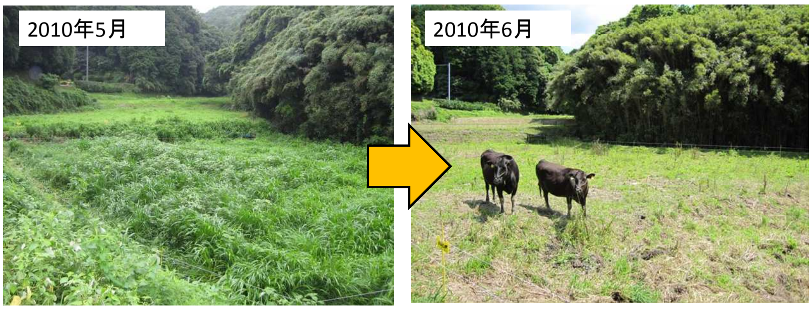

図１　放牧開始前（左）と終了時（右）の放牧地

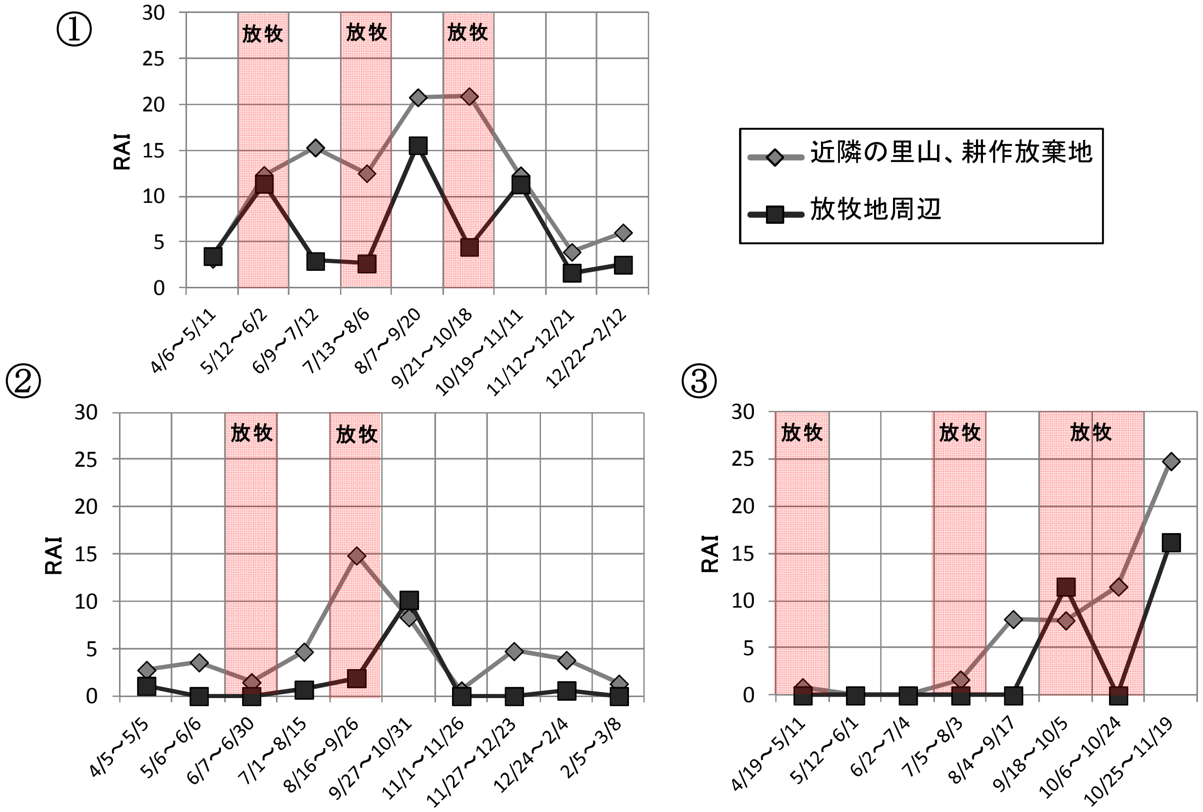

図２　各年度のイノシシの出現頻度（RAI）
（①：2010 年度、②：2011 年度、③：2012 年度）

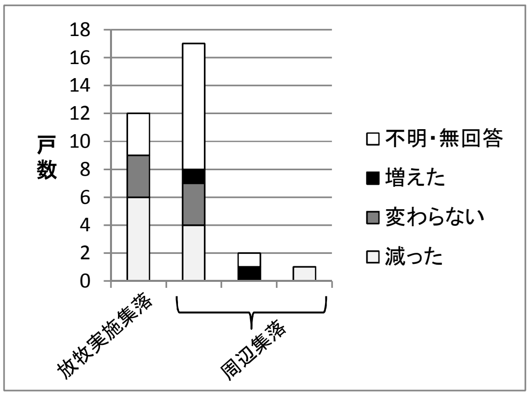

図３　調査区別、農作物被害の増減
（2012 年度 vs 放牧試験開始前）

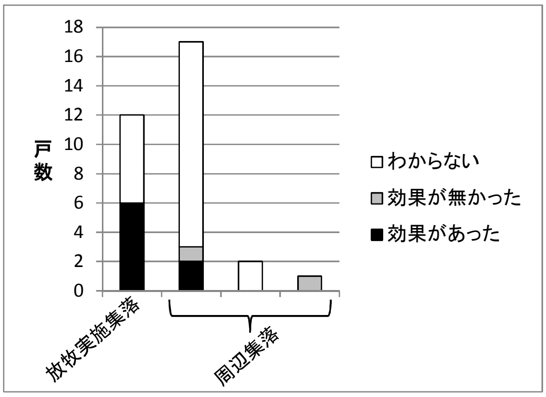

図４　調査区別、放牧の効果に対する地域住民の評価（2012 年度）

［発表及び関連文献］

平成 24 年度試験研究成果発表会資料（酪農・肉牛部門）